

和室に植木や灯籠（の絵画作品）を持ち込んで作庭する。

植木を置き、灯籠を壁にかけて空間を作ることは作庭と同じ行為である。

室内にいて庭を作ることができる。私はこの頃特に室内に異空間を作り出すことが平面作品の大きな役割の一つであると考えている。

今回の作品は下の写真のように、壁に仕切られていない昔ながらの日本建築の室内に展示することを想定して描きためてきたものである。

しかしながら、それだけに固執していたら「室内」という場所の設定が狭い意味になってしまう。今回は現代的な場所での展示をさせていただくということで、日常の暮らしの空間を想定しながら、植木のある室内を想像していただければと思い展示を考えた。靴を脱いで入る室内であれば植木は地面により近く置きたいところだが、ここは天井も高く、土足の室内である。西側から光が入るので、そちらの方に植物のある空間が広がっていくように八つ手のドロ잉を配置し、個々に独立した作品を一つの空間につなぐために壁面にもドロ잉をすることにした。

油彩画の方はやや形式的に見えるような展示となっているため、室内に植木鉢を置くように、鑑賞者がそれぞれに馴染みのある場所に一つ一つ置いた場合を想像して鑑賞していただければ幸いです。

2019年 6月 英ゆう



イメージ画像